

注：指示があるまで開けないで下さい。

## 総合防犯設備士資格認定試験

### 第一次試験(筆記方式)

C専門問題 (選択)	
出題	4問中2問選択
時間	60分
配点	1問100点・合計200点

受験番号	— —
氏名	

### 注意事項

1. 座席は指定されています。受験番号を確認して着席して下さい。
2. 机の上には「受験票」「筆記用具」「時計」以外のものは置かないで下さい。
3. **受験番号・氏名は、はっきりと記入して下さい。別紙図面にも受験番号・氏名を記入して下さい。**
4. 解答は、設問にしたがって記入して下さい。
5. 選択した設問の上部の空欄に○印を付けてください。**3問以上選択すると無効になります。**
6. 「試験問題」・「解答用紙」は試験終了後すべて回収します。
7. 試験時間内に退席される場合は、試験問題・解答用紙を机の上に置き試験官の許可を得て静かに退席して下さい。  
ただし、試験開始後30分、および試験終了前10分間は退席できません。  
退席後、試験会場近辺では、静かにお願いします。
8. 試験会場においては、試験官の指示にしたがって下さい。



選択する場合は右空欄に  
○印を付ける。

### C 専門問題 (選択)

#### 問題-1 (機器関連)

防犯カメラのアナログカメラ (NTSC 方式) とネットワークカメラ (IP-IF 方式) を比較して、ネットワークカメラの長所及び短所を記せ。

長所	
短所	

選択する場合は右空欄に○印を付ける。	
--------------------	--

## C 専門問題 (選択)

### 問題-2 (施工関連)

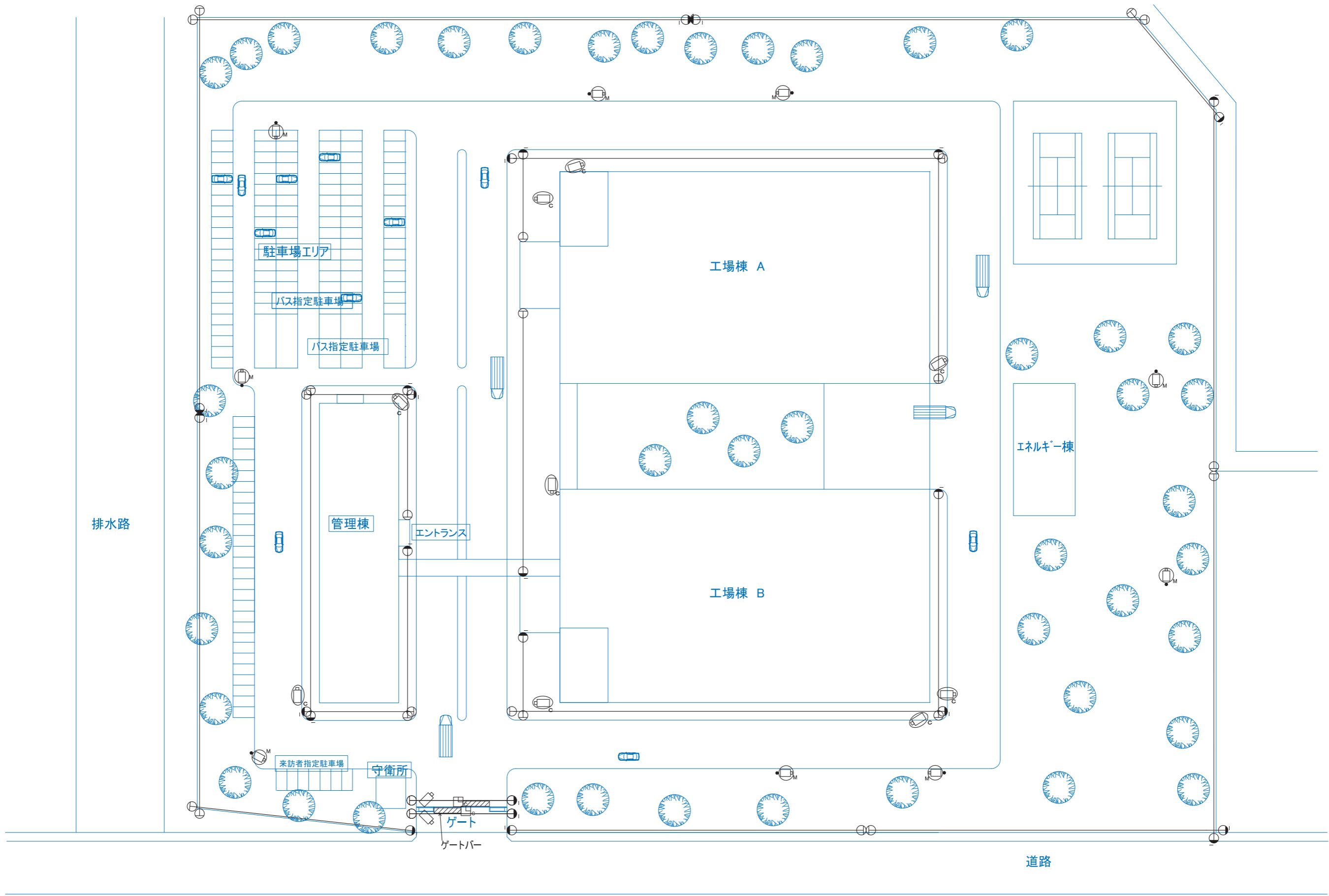
食品工場【図1工場配置図】の外周(G1-1)に、赤外線ビーム検知器(多段検知型)を設置するに当たり、誤報・失報対策なども含めた施工上の留意点を簡潔に記せ。

赤外線ビーム検知器は、既設のモーションディテクタ(VMD)機能搭載の防犯カメラ(図中M記号・9台)やコンビネーションカメラ(PTZ機能搭載図中C記号・9台)とシステムの併用され、万全の侵入監視システムを構築する。設備配置図は、おおよその設置位置を示すもので、侵入検知が最大限有効になるよう現場合合わせの上、施工する。

東側及び北側の隣地境界線は、高さ2mのブロック塀。南側及び西側の外周には高さ1.2mの高強度アルミ合金製フェンス(タテ格子ピッチ15cm)を設けている。構内(緑地部)の植栽は、高さは3~4m程度、GLから2~2.5mくらいまで枝打ちをされており、防犯上の視認性確保に配慮している。配線工事は、別途工事とする。

検知器 取付及 び調整 に伴う 留意点	設計図書と現場の状況を精査し、設置位置などを決定する。変更する場合は、設計者へ報告する。

# 【C専門問題(選択)問題一2】【工場配置図】



選択する場合は右空欄に  
○印を付ける。

## C 専門問題 (選択)

### 問題-3 (警備関連 1/2~2/2)

1. 警備業法第2条では、「警備業とは、他人の需要に応じ、営利の目的をもって警備業務を反復継続して行うことをいう。」としており、警備業務を以下の種類に区分している。①の例にならって下表の空欄を埋めよ

①	1号警備	施設警備、機械警備を含む	事務所、住宅、興行場、駐車場、遊園地等（以下「警備業務対象施設」という。）における盗難等の事故の発生を警戒し、防止する業務
②	2号警備		
③	3号警備		
④	4号警備		

2. 警備業法第2条第5項で規定している機械警備業務の定義を記せ。

--

### 3. 機械警備業務の届出（警備業法第40条）

機械警備業を営む警備業者（以下「機械警備業者」という。）は、機械警備業務を行おうとするときは、当該機械警備業務に係る受信機器を設置する施設（以下「基地局」という。）又は送信機器を設置する警備業務対象施設の所在する都道府県の区域ごとに、当該区域を管轄する公安委員会に、次の事項を記載した届出書を提出しなければならない。この場合において、当該届出書には、内閣府令で定める書類を添付しなければならないとしている。以下に届出書に記載すべき事項を記せ。

一	
二	
三	前二号に掲げるもののほか、内閣府令で定める事項

選択する場合は右空欄に  
○印を付ける。

## C 専門問題（選択）

### 問題－4（設計関連 1/2～2/2）

防犯設備には防犯システムとその他の防犯設備があり、今回、防犯システムのうちの侵入警報システムの更新計画について検討することになった。

侵入警報システムは、第1警戒線、第2警戒線及び第3警戒線に侵入検知器及び／又は移動体検知機能付き侵入監視機器（防犯カメラ）などを設置して侵入を早期に検知し、侵入現場や監視所で警報を発して、侵入者に検知されていることを知らせ侵入を諦めさせる効果と、監視人に侵入者の確認と内部者や警備会社又は警察への通報などを行わせるものである。

第1警戒線、第2警戒線及び第3警戒線での侵入検知に適すると思われる検知器、その検知器の作動原理及び選定理由を記入例にならって表を埋めよ。ただし、同じ検知器を他の警戒線には使用しないものとする。

警戒線	侵入検知に適すると思われる検知器	検知器の作動原理	選定理由
第1	マイクロ波式検知器	マイクロ波の送信機アンテナから受信機アンテナに向けて放射されたマイクロ波の受信レベルの変化や遮断を検知する	フェンス又は壁から敷地内への侵入を検知できるから
第2			

第 3			